



絵本フォーラム

2017年7月10日 第113号
 2003年4月25日登録第465413号(講稿刊11ヶ月2,070円(年6回毎月10日発行郵送料込み))
 発行所 NPO法人「絵本で子育て」センター
 芦屋 〒659-0067 芦屋市茶屋之町2-21-405
 TEL 0797-38-7516 FAX 0797-38-7939
 http://www.ehondekosodate.com/ E-mail info@ehondekosodate.com
 郵便振替口座 00900-9-191667

子ども歳時記
 本 当 に
 大切なことは……
 加藤美帆(絵本講師)

私には10歳の娘と、息子がいます。主人の仕事の都合で娘が4ヶ月の頃から4歳までの4年間を台湾で過ごしました。日本にいらなかったため、子育てに関することさまざまな情報に触れることもあまりなく、自分のペースで楽しく子育てをしてきたように思います。図書館にはよく行って、絵本を借りて読んでいます。...

“たましい”をゆさぶる子どもの本の世界 102

飲肥 糺(批評家・エッセイスト)

「ちょっとだけ」... 国民が、権力行使の土俵で、やってはいけない、ムチやなぶるまいに手を染めている。一方、前任者の法的制度的成果を少しの思慮もなく改廃せんとすれば、他方は、身に降りかかる不都合を、取り巻く、知能な存せず、記憶なしと強弁させ、行政書まで廃棄したとヌケヌケ

「たましい」をゆさぶる子どもの本の世界 102

「ちょっとだけ」(福音館書店)

とちゃんと見抜かれていない、子どもだからこその、正論を射て、祖国の未来を憂えているのではない、こんな不誠実な権力者が、子ども達の必須の学習教材に「道徳」を加えるというのなら、冗談にもならないどころか、国民を馬鹿にした話だろう。

「たましい」をゆさぶる子どもの本の世界 102

「おととんのちず」(あすなろ書房)

その時、頭に浮かんだ絵本がありました。「おととんのちず」(リトルグレイブ)という絵本。戦争で故郷を追われた作者が、故郷の地図を、食料も乏しいなか、父親はひとかけのパンでなくてはならない、日常の子育てで、きこから生まれたという「おととんのちず」の物語は、胸がふるえるほど感動的ではほえまじいのである。

シリーズ累計1,500万部! 世代を超えて愛されるロングセラー

松谷みよ子
あかちゃんの本

千112-0011 東京都文京区千石4-6-6
ご注文・お問合わせ ☎03-5976-4181

雨ニモマケズ
Rain Won't

山村浩二の絵と
アーサー・ビナードの新訳が出て、
本場の宮沢賢治の里山

千116-0001 東京都国立市北1-7-23
TEL.042-575-8888 FAX.042-575-8886

平和って、どんなこと?

W・エドワーズ=さく おひたす=訳
定価: 本体1,400円+税
ISBN978-4-89737-900-5

千136-0082 東京都江東区新木場2丁目2番1号
TEL.03-5569-5491 (代) TEL.03-5569-5824
www.rikuyosha.co.jp

抱きしめてあげて
育てなおしの手帳

遠辺久子 著 いわさきちひろ 画
定価 本体1,400円+税

幼年期から思春期にかけての育児の大切なこと(単に勉強のできる子/「仲間と仲良くやってくる」こと)ではなく、次の社会で「仲間と仲良くやってくる」社会人/「誰か」の助けを借り、より「育て」できる親を育てること、という小児科医もあつた著者の方法などを26の事例を挙げて解説します!

千113-0033 東京都文京区本郷4-1-14
TEL.03-3814-0471 FAX.03-3814-2366

子どものアトリエ
絵本づくりを支えたもの

西巻芳子 著
定価(本体1,400円+税)

芸大を卒業してはじめて「子どものアトリエ」。そこへ通ってくる子どもたちから学んだ絵を描くことの原点、絵本づくりで大切にしてきたこと、そして、自らの子ども時代の記憶……。日本を代表するファンタジー絵本「わたしのワンピ」の作者が書き下ろした、初めてのエッセイ集です。

千112-0014 東京都港区南青山1-23-6
TEL.03-6228-1877 FAX.03-6228-1875
http://www.kogumasha.co.jp

現代の子育て環境100 絵本体験記

わたしの
絵本に感謝
小合 寛美(兵庫県芦屋市)

娘が10歳になり、私が母として10年がたちました。読み聞かせの後に、娘が両親の母、私が10歳の時に親や祖母に絵本の読み聞かせをしてもらった時のこと、2年間開閉生活を終り、2ヶ月後に父も交通事故で他界したので、私たち姉弟はそれぞれ親類の家に引き取られ、私は3年間叔母の家でお世話になりました。

多本 ゆき枝(大阪府茨木市)

私の子育てを支えてくれた、子どもたちがくれた言葉も豊かに育つてくれたのは、絵本のおかげだと感謝の気持ちでいっぱいです。...

絵本講師の発言席

絵本でコミュニケーション
後藤 純子(絵本講師)

私が「絵本講師 養成講座」を受講したのは、聴覚に障害のある親子と係わり手をつなぐという目的で。...

季節とともに生きよう 絵本とともに生きよう 子どもたちに思いを届けよう

絵本講師の本棚から

絵本って、自分自身では何もできない

本屋さんで、また図書館で、誰かが本物の絵本を手にとって表紙を開いたときに、初めて画家が全力で描き上げた絵が動きだします。誰かが声に出して読んで、初めて作家の思いが詰まった言葉が歌を歌いだします。その誰かが絵本を読むときに、相手が出て、読み手と書き手が共に楽しい時間を過ごして初めて、絵本は生き生きと本意の姿を見せるのです。

NPO法人「絵本で子育て」センター 絵本講師・井下陽子

千112-0011 東京都文京区千石4-6-6
TEL.03-5976-4181 FAX.03-5976-4181

